



Front Interview

働き方・生き方を変えるヒント

大正大学心理社会学部 准教授 田中 俊之 さん

「男性学」とは、男性が男性であるがゆえに抱える問題や差別について研究する学問です。「日本の男性にとって最も身近で大きな問題は働き過ぎ。解決のためには背景にある男性中心の働き方モデルや生き方を変えることが必要です。男性が生きやすい社会を考えることは、さまざまな属性の人にとっても生きやすい社会をつくることにつながります」と話す男性学の第一人者田中俊之さん(大正大学准教授)にお話を伺いました。

◇なぜ男性は働き過ぎなのか

高度経済成長期以降、「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担が顕著になり職住分離が進みました。経済が安定している間は男性が大黒柱として家計を支える形でも大きな問題はなかったのですが、現在のように雇用が減少し、終身雇用も給与上昇も不確かな状況になってもお家計の担い手が男性だけというのは男性にとって非常にしんどいですし、家族にとってもリスクな状況です。

最近では長時間労働を見直そうとする動きも出てきていますが、なかなか進んでいないように思います。ではなぜ、男性は働き過ぎてしまうのでしょうか。私は男性を測る価値が仕事に集中してしまっていることが大きな要因だと思います。「男性は仕事、女性は家庭」というモデルの社会では、「男性の経済力」は大きな価値基準になります。必然的に男性の評価は仕事(あるいはそれに結びつく学歴)になるのです、ついつい頑張り過ぎてしまいます。

職場での待遇が悪くても一家の稼ぎ手は男性だけ、さらに男性自身も仕事以外に自分の価値を証明する物差しを見つけられないので、とにかくたくさん働いて、稼ごうとする。これでは長時間労働の改善は望めません。

◇自分を大切にすることを

社会は急には変わりませんが、自分の意識は変わります。まずは「自分が何をしたいか」をもっと真剣に考えてみてください。

私はよく仕事中心の男性に「とりあえず明日、

有休をとってみてください」と言います。「映画を見たり、友人と会ったりしてもいい。そして私服を買いに行く。やってみたい趣味を始めてみるのもお勧めです」と。すると、まず私服がないことに驚く人が多い、そして行く場所がない、会う相手がない…と仕事抜きの自分の姿を見せつけられ、がく然とする人が少なくありません。しかし等身大の自分に気付くと、本当の自分が見えて生きやすくなるのではないのでしょうか。仕事以外の自分の価値に気づくことで、自分を大切にすることを考えるようになると思います。

◇男性が抱える問題と女性の活躍は表裏一体

男女共同参画という「女性の地位向上のため」と捉える人が多いのですが、男性の長時間労働問題と女性の活躍推進は切り離せません。現在、男女の賃金格差は10対7ほどで、家計を考えると「子育ては女性」という選択になってしまいます。まずは男女の賃金や地位の格差解消が喫緊の課題です。それは女性だけでなく社会全体にメリットをもたらします。

ジェンダーは決して女性だけの話ではありません。長く刷り込まれてきた性別役割分担意識も、時代に合わせて価値観をアップデートしていくことが必要です。ぜひ一度立ち止まって、自分が「らしさ」に縛られていないか、誰かを縛っていないかを考えてみてください。

【プロフィール】 田中 俊之 (たなか としゆき)

1975年東京都生まれ。博士(社会学)。社会学・男性学・キャリア教育論を主な研究分野とし、男性が男性だからこそ抱える悩みや葛藤に社会学の立場からアプローチし、研究、考察を行っている。内閣府男女共同参画推進連携会議有識者議員、厚生労働省イクメンプロジェクト推進委員会委員ほか。「男子が10代のうちに考えておきたいこと」(岩波書店)「男が動かない、いいじゃないか!」(講談社)「40男はなぜ嫌われるか」(イースト新書)「男がつらいよー絶望の時代の希望の男性学」(KADOKAWA)など著書多数。

特集

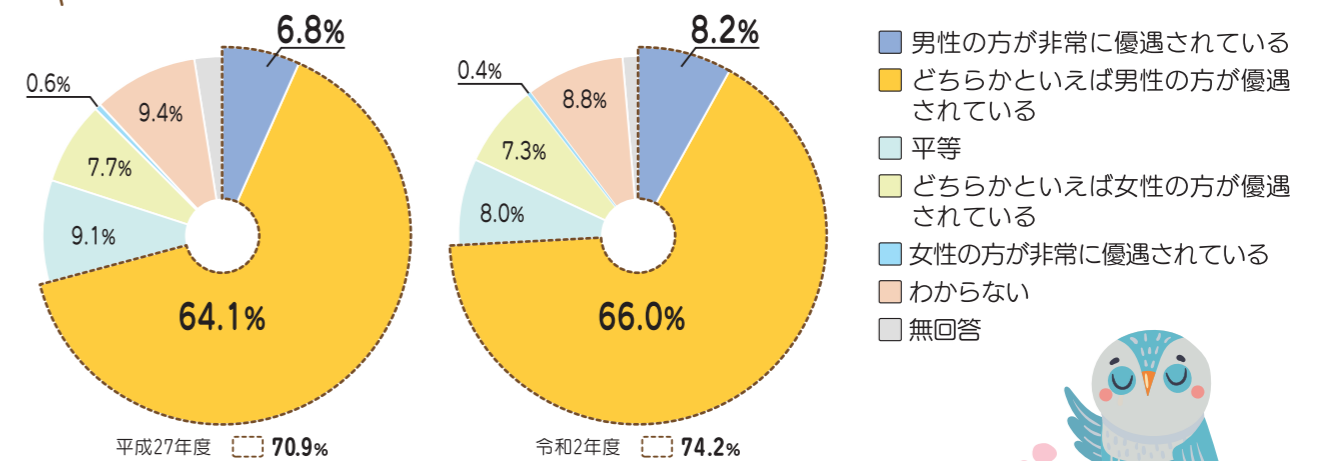
あなたは どう思う？ 鹿児島市の男女共同参画

～男女共同参画に関する市民意識調査(令和2年8月実施)より～

男女共同参画社会基本法が施行されて以降、鹿児島市の男女共同参画に関する市民意識調査は今回で5回目となりました。また、今年は、平成24年から10年間の「第2次鹿児島市男女共同参画計画」が3月末で終了し、次のステップの「第3次鹿児島市男女共同参画計画」へ踏み出すためのスタートの年に当たります。県内外でも男女共同参画社会の実現へ向けたさまざまな取り組みが実施されるなか、鹿児島市民の意識がどのように変化したのか、調査結果をもとに見ていきましょう。

(本調査は鹿児島市住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の鹿児島市民3,000人を対象に実施しました。)

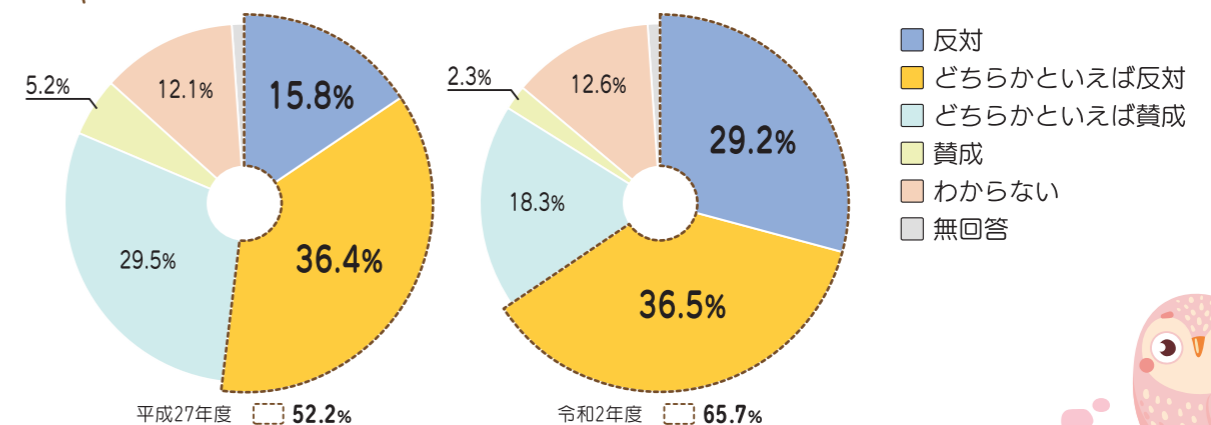
1 社会全体で見た場合、男女の地位は平等になっていると思いますか？



「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合がとても高く、平成27年度と令和2年度で大きな変化はみられません。



2 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか？



「男性は仕事、女性は家庭」という考えに賛成できないと思う人の割合が増えていることがわかります。

